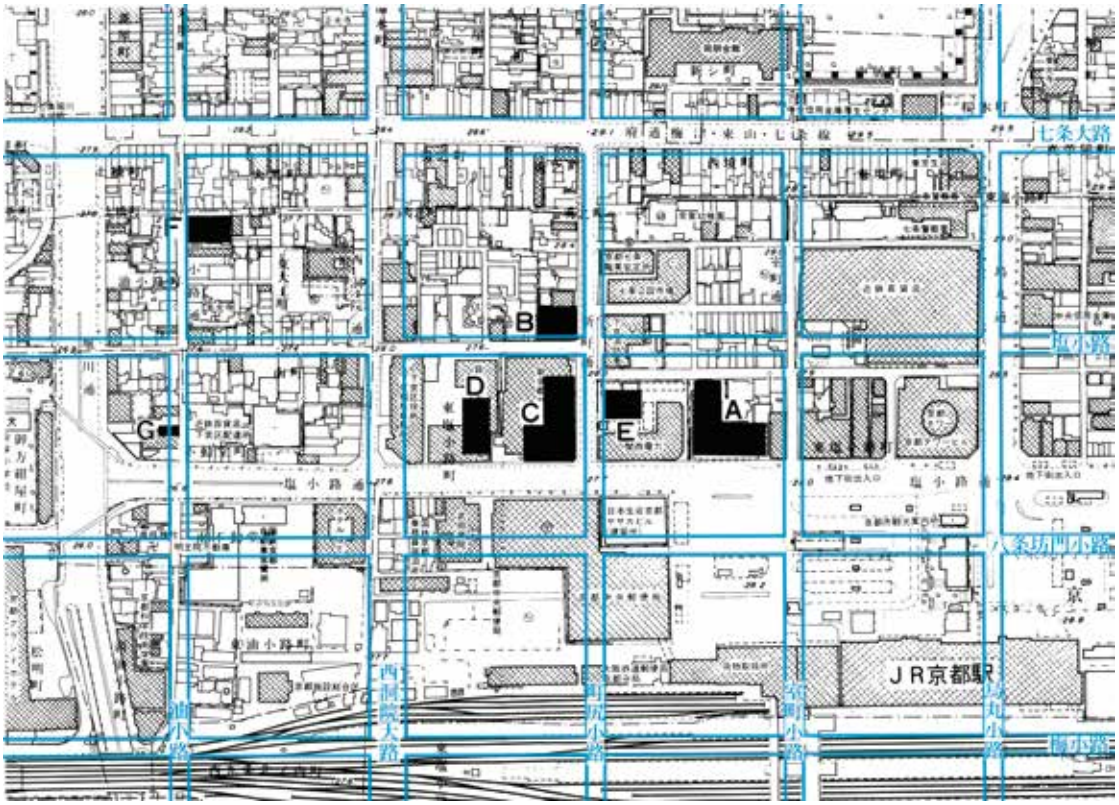
生産・技術２

京都駅周辺出土の鋳型

http://www.kyoto-arc.or.jp
（財）京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館



調査位置図（1：5000）

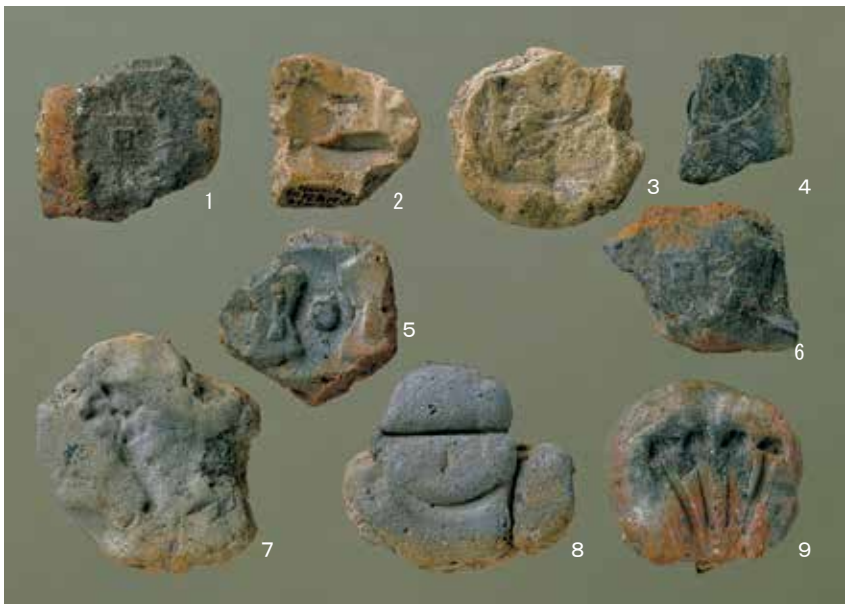
A：鋳造工房の一部を検出　B：中世の建物や井戸を検出　C：刀装具の鋳型が出土　D：井戸や埋甕などを検出
E：埋納銭が出土　F：中世の鍛冶関連遺構を検出　G：中世の鍛冶関連遺構を検出

京都駅は、観光都市京都の玄関である。この地は、平安京の左京八条三坊にあたる。左京八条三坊は、東を東洞院大路、西を西洞院大路、北を七条大路、南を八条大路に囲まれた正方形の区画で、その中に東西と南北それぞれに３本ずつの小路が走る。これにより一辺約 120 mの正方形が 16 町に分かれる。

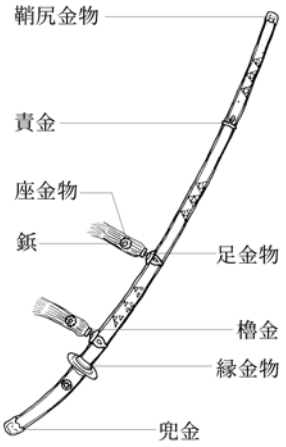
現在の地図と重ねると、今の通りが名称・位置ともに当時の道をかなり受け継いでいることがわかる。ただし、現在の塩小路通は駅前付近で南へ移動しているが、平安京の塩小路の位置は木津屋橋通として一部踏襲されている。

京都駅は、コンコースを含めると坊の南半分を占有する。線路区は梅小路以南の４町を占め、現時点では考古学調査の手が及ばない地点である。埋蔵文化財調査は線路区以北で実施され、1990 年現在、その件数は左京八条三坊のみで発掘調査 18 件、試掘調査５件、立会調査 44 件にのぼる。

このうち、鋳型が多量に出土したのはＡ・Ｃ両地点の調査である。Ｃ地点の調査では、刀装具をはじめとして様々な鋳型が出土した。刀装具では柄頭（つかがしら）に被せる兜金（かぶとがね）・柄口（つか ぐち）あるいは鞘口（さやぐち）の縁金物（ふちかなもの）・責金（せめがね）・足金物（あしかなもの）・櫓金（ろがね）・座金物（ざかなもの）・鋲（びょう）などで、その他に仏具とみられる花瓶（けびょう）や燭台（しょくだい）などの鋳型が出土している。また、片口のついた半球形の大小の坩堝（るつぼ）や鞴（ふいご）の羽口（はぐち）が出土していることから、この地で様々な金物を鋳造していたことが知れる。出土した遺物の年代から、金物の鋳造は平安時代後期から南北朝時代まで続き、なかでも刀装具の生産は鎌



Ａ地点出土の鋳型



太刀の各部名称

倉時代前半に最も盛んであったことがわかる。

また、左京八条二坊の西洞院大路に隣接したＦ・Ｇ地点の調査では鋳物の生産跡を確認している。ここでは坩堝・金属のカス・焼土の塊などがはいった穴を検出しており、野鍛冶（のかじ）跡と推定している。出土遺物から八条三坊のＡ～Ｅ地点と同じく鎌倉時代から室町時代の遺構と考えられ、この周辺で広く鋳物の生産が行なわれていたことが知れる。

Ａ地点で出土した鋳型には、刀装具の兜金か鞘尻金物とみられるもの（３・５）、座金物（１・６）、縁金物〈２）、銭（４）、釘（９）や不明のもの（７・８）がある。その他、各種の坩堝や鞴の羽口などが出土した。ここでは工房の一部とみられる遺構が２基ある。掘りくぼめた穴の中に礫・瓦・塼（せん）などを入れて突き固めたもので、１基には石組の痕跡が残る。上部に炭が堆積し、多量の焼土の塊を含む。鋳型や坩堝などの鋳造用具が集中してここから出土した。操業期間は限定できないが、おおよそ鎌倉時代後半から室町時代中頃と考えられる。

刀装具などの鋳型は、５～６cm程の破片がほとんどで、８cmを越すものはない。型の内面は緻密な粘土を薄く延べ、中間はスサ混りの土、外側に砂を多量に含む土を用いた３層の構造である。残存状況の良好な鋳型には、溶けた金属を流し込む湯口や型合せのしるしがみられる。型と製品の剥離剤に雲母片が用いられる。花瓶などの大型品の鋳型も基本的には同じであるが、中間や外側により粗い土が用いられる。

なお、坩堝に付着した金属の蛍光Ｘ線分析を行なった結果、銅・錫・鉛が認められ、青銅に近い合金という報告を得ている。また、小型の坩堝の一部には金・銀を溶した痕跡がみられるものもある。

平安京には、官営の市である東市と西市が置かれていた。10世紀後半には右京の衰退とともに西市はその機能を失い、東市（現在の西本願寺付近）が主体となり、その周辺に人々が集まり生活するようになる。そして、平安時代末期から鎌倉時代には左京八条三坊の一角にあたる七条町に市が立ち、商工業が繁栄し東市にとってかわる。朱雀大路以東、七条大路以南の地には藤原氏などの貴族や平氏一門の邸宅が立ち並んでいたことが知られており、これらの人々との関係が七条町の商工業をさらに発展させたと考えられる。

出土した鋳型は、七条町界隈の鋳物師、さらには鍛冶・細工に携わる人々の姿を彷彿させる。のみならず、これらの手工業者を取り巻く商人たちもいただろう。町の繁栄や賑わいを連想させずにはいられない。

しかし、七条町も室町時代になると衰退の兆しを見せ始め、応仁の乱以後、一帯は荒廃し、やがて水田と化していく。再び活気を取り戻すのは明治になり京都駅が設置されてからである。